

「第5回 PTA広報紙コンクール」 審査結果

今年度は幼稚園3園、小学校18校、中学校2校の計23校・園から応募があり、1月24日に審査を実施しました。毎年そうですが、PTA広報紙は目的も、用紙の大きさも、ページ数も、体裁もさまざまで、これらをひとくくりで審査するのは大変難航しましたが、結果として以下の通りの審査結果となりました。

鈴鹿市 PTA 連合会会長賞

庄内小学校「ゆりの木」

PTA 広報紙につきものの運動会や修学旅行などの記事は「学校だより」に任せ、野菜レシピ、休日の昼ご飯、健康法、ストレス解消法、子どもへのアンケートなどで構成された生活密着型の広報紙となっており、やわらかい文章により親しみやすさ、読みやすさが演出されていました。

朝日新聞社賞

清和小学校「せいわ」

新聞・テレビ報道の柱のひとつになっている「環境問題」にスポットを当てている独自性や、特集で「大地震発生」。初期行動、非常持ち出し品チェックリスト、緊急避難所マップ、災害意識アンケート、阪神大震災で役立ったものなど多彩なデータを見開きで紹介されている事などが評価されました。

優秀賞

井田川小学校「広報いだがわ」
白子小学校「エプロン」
河曲幼稚園「かわのメール」

企画賞

郡山小学校「こおりやま」

参加賞

石薬師幼稚園、旭が丘小学校、
愛宕小学校、加佐登小学校、
庄野小学校、玉垣小学校、
鼓ヶ浦小学校、深井沢小学校、
箕田小学校、明生小学校、
若松小学校、千代崎中学校、
平田野中学校

特別賞

飯野幼稚園「えがお」

努力賞

飯野小学校「いいの」
一ノ宮小学校「広報都波岐」
牧田小学校「くすの木」

思春期研修会

「子どものこころと命をはぐくむ」見聞録



平成21年2月8日、鈴鹿市ふれあいセンターにおいてハートライフの会・三重県鈴鹿保健福祉事務所主催の講演会が開催されました。

題して、「子どものこころと命をはぐくむ」

～自分、そして人の心と体を大切にする方法を子どもたちに伝えたい～

大切なことって誰もがわかっているのに、子どもと面と向かってなかなか話ができない親はたくさんいます。だって私たちもきちんと性教育を受けてこないで大人になったのです。

子どもの誕生と同時に私たちは“親”をスタートし、子どもの年齢だけ“親”を経験してきました。不安や悩みの尽きない子育て。

今回の講演では、そんな大人たちにいくつかのメッセージを提示してくれました。

性教育は生きるための心を学ぶ教育

～知識を教え込むのではなく心に響かせる～

生きるための心と書く性は人間の人生を考えること。たった一度の性行為でも人生を大きく左右することが起こりうる。

自分を大切にできない人は相手をも大切にできない。

性教育の基本は家族です

～学校ではありません 子どもは見ています～

子どもの目に私たち夫婦はどのように映っているのでしょうか。

家庭の中で会話はよくなされているのか。父親のことをよくわかっている母親なのか。母親のことをよくわかっている父親なのか。おじいちゃん、おばあちゃんとの関係はどうなののでしょうか。

